

温古知新③7 菜根譚 9 1

笑顔礼讃西東

都市中央句会 (東京都・町田市) 2 3

阿部久美子 (東京都・港区) 4

投稿作品 5 8

心に残った作品 9

詠み人スクランブル

(あなたが好きな鍋は何ですか?) 10 11

新潟ぶらり / マリンピア日本海 12

にいがた文化の記憶館便り(5) 13

食案句案のすすめ(5) 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」歌人 錦見映理子 16

12
December
Vol.83

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミュージック・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニュース



32項までをご紹介した前回。良い時も悪い時も、先々のことを見据えて行動しなければなりません。今回は、33項からご紹介します。

功名富貴の心を放ち得下して、便ち凡を脱すべし。道德仁義の心を放ち得下して、纔て聖に入るべし。

(成功して富を得ようとすると心を捨て切れれば、並外れた人間になれる。道德や仁義にこだわる心を捨て切れれば、聖人の仲間入りが出来る。) 利欲は未だ尽くは心を害せず、意見は乃ち心を害するの蠹賊なり。声色は未だ必ずしも道を障らず、聡明は乃ち道を障るの藩屏なり。

(利益を求めることは必ずしも心を損なうわけではない。思い込みが害虫のように善を阻むのだ。名声や色情が必ずしも修行の道のさまたげになるわけではなく、謙虚さに欠けることが、修行の道の妨げとなる。)

成功や利益、道德に固執せず、心穏やかに、大きく構えることが必要なかもしれません。

人情は反復し、世路は崎嶇たり。行き去らざる処は、須らく一步を退くの法を知るべし。行

き得去る処は、務て三分を譲るの功を加えよ。(人の情は変わりやすく、人生は実に険しい。抜き差しならないところでは、必ず一步引くことをわきまえ、通れるところでも、少しでも譲ることをわきまえるべき。)

いかなる時も一步引くことが肝要! いつも慎ましく……。

小人を待つは、厳に難からずして、悪まざるに難し。君子を待つは、恭に難からずして、礼あるに難し。

(未熟者に厳しくするのは簡単でも、憎まないようにするのは難しい。上に立つ者に対し媚びるのは簡単でも、礼をつくすのは難しい。) 楽な方へと流されずに、己をしっかり持てるようになれば、より良い人になれるでしょう。

寧ろ渾噩を守りて、聡明を黜け、些かの正気を留めて天地に還せ。寧ろ紛華を謝して、澹泊に甘んじ、個の清名をして乾坤に遺せ。

(利口ぶるのはやめ、無骨な率直さを守り、自分の本心を見極め、天地と一体となって生きる。華美な暮らしに背を向け、自然体で安住し、そのすがすがしい一生を天地に還しなさい。)

素直に自然体で。元気に生きていきたいものです。

心を大きく、周りに流されず。時には一步引いて素直にいたいものです。(古川久美子)

都市中央句会

主宰 中西夕紀様

(東京都・町田市)

東京都の一番南に位置する町田市。

10月25日、町田市民ホールで行われた「都市中央句会」にお邪魔しました。「都市」は平成20年2月、中西夕紀さんが東京で創刊。有季定型を守り、各々の個性を尊重した俳句創作をめざしている。また、先人の俳句から学ぶため、現在、月1回古典俳句勉強会(江戸時代)や現代俳句勉強会(正岡子規以降)を開いているほか、有名作家の代表句集の輪読会および吟行、題詠句会も盛んに行われるなど、多岐に俳句を学べる機会を設けている。

そして、本日の中央句会は5句出句の5句選(うち特選1句)のあと、披講、点を入れた句に対する各人と主宰の講評というオーソドックスな句会。合計155句は、どのように解釈され心に響くのであろうか。

◎まずは、高得点句より
物落つる音や林は霧の中 渡辺茫子

木の実が落ちてくる音だけが聞こえ、他には何もなくて霧の中だったという句／何が落ちたと言わないで「物」といったところに作者の驚きと、林の広さが出た拡がりがある句。

中西…見えないものが、見えないところで落ちた。音だけに集中してつくられていていいのだが、「林は」の「は」が

気になった。「の」にすると、落ちたものに焦点が集まる。

芋やうかんぶら下げてる秋祭

吉川わる

秋祭の何ということはない句なのに、羊羹をぶら下げている人がよく見えてくる／決して大きくはない身近なお祭りでのことだと思いが、芋ようかんがよかった。

中西…普段着の、親しみやすいお祭りの感じがよく出ている。

秋湿り軍手の中の爪に土

堤 萌

一所懸命に作業をしている景が見えた。

中西…軍手の中のことまで具体的にしっかりと描け、力を入れて作業した感じが伝わってくる。

林檎噛む原稿用紙白きまま

杉本奈津子

硬い林檎だったと思うが「林檎噛む」に、思案にくれてはいる様子がでている／噛めば何かが生まれるのでは?と思ったが、あるのはりんごと白紙の原稿用紙という無念さ。

中西…私もしよっちゅうこういう状態なので、共感していただいた(笑)。



▲「都市」(隔月刊)
通巻47号



▲玉川大学継続学習センターでも俳句を教えて16年

源平の帽子八百運動会

樋口冬青

運動会といえば、ふつう紅白帽や赤白帽というところを、源平の帽子とした表現が面白く、運動会も立派に見える。

中西…「軍は合わせて八百で」と、源平の戦記を読んでいるみたいでおもしろい。

雀蛤にスカートと皆ゴムに

野川美渦

「に」でつないで、雀が蛤になってスカートがゴムになったと、散文的な表現で「雀蛤となる」という難しい季語に挑戦している。「を」「は」「は」にした方がもつとはっきりと対比がでたと思う。

眠る猫いつか秋日の影にをり

盛田恵未

日向ぼっこをしていたはずの猫が、時のうつろいにより、いつの間にか日影にいますというその様子がよくでている。

菊日和「ペテロ」の名もて兄逝けり

川合岳童

「ペテロ」はクリスマスチャン名だが、和風の「菊日和」で日本人だということがわかる。

中西…「菊日和」をもってきたことで大往生だったのかと。「ペテロの名もて」がいい。

ここでチラリと中西先生の手元を見ると、選んだ句に〇がついているほかは、一切のメモ書きなし! 頭に整理されたことを、その場その場で話されている様子に、はたで一人たじろぐ。

櫛紅葉うだつ上がりし蠟の町

安藤風林

櫛紅葉を詠っているようで、櫛の実が蠟の原料であり、その蠟をとって一旗あげた、つまりうだつが上がったということまでうまく詠んでいる。

中西…財を成し、うだつを上げた大きな家が見えてきた。

穂芒の高さ違へて光り合ふ

丸山 桃

「高さ違へて」に、透明感が感じられていい／「月一輪 凍湖一輪 光り合ふ」という橋本多佳子の句を思った。

中西…高さを違えているのは、起伏のある戦場ヶ原のような芒原なのかと。そこがおもしろい。

雲水の白足袋駅の初時雨

森 有也

寒々としていて、白足袋の白さと初時雨がとても合っている。

別れ路のもみぢ一葉や葉なす

甲光あや

あまりにきれいな紅葉で、帰って葉にしたという句。

中西…1つ注意したのは「もみぢ」は「もみぢ」。記念に紅葉を葉にしてノートにはさんだ、そこからへんをうまく詠った。切れが効いている。

るのこづち素数のやうな夫でよし

岩原真咲

素数は割り切れない数字。素数のやうなという表現がとてもいい。そのまの夫でいてほしい、という夫への愛情を感じる／私の夫とは違う人を想像して、ただうらやましいなど(笑)。

中西…べたべたしたのはいやだけれど、夫恋の歌もこのくらいなら採ってもいいかな(笑)。

田一枚二つに割るや稲架襖 大木満里

稲刈りのあと、稲架が田を二つに割っている景がはつきり見えた。

中西…気になったのは「襖」。「霧襖」など、かなり大きなものを想像させるのが「襖」。田一枚分の稲架では襖とは言えないので、襖は替えた方がいいが、田を二つに割ったというのがよかった。

生きるもの風に顔挙げ烏瓜 永井 詩

「生きるもの」と大上段からきて、そこによくある烏瓜。きれいに詠っている。中西…顔を挙げて風に真向かっていくなんて、生きる強い姿勢がでている。

銀山の間歩は閉ざされ赤のまま 坂本遊美

中西…間歩は坑道のこと。廃坑と言わず間歩と言ったのがよかった。路傍に咲いている赤のままもよく効いている。

◎先生の特選 5句

背伸びして触れたる風や萩の花 大木満里

「背伸びして」とあるので、先生からの身長の方かと思ったら満里さん。

ずいぶん大きい萩の花だ(笑)。実に気持ちのいい句。

中西…「背伸びして触れたる風」がいい。まさか長身の満里さんとは。背伸びして手を伸ばしたら風に触れた、萩の花の高さが出ていてなかなかの発見。

草の穂の紫紺の風を放ちけり 秋澤夏斗
景を大きくする言葉は使われていないが、穂草の広い草原が見え情景豊かな句。

中西…風に揺れている穂が紫紺に見えた、この辺が詩情豊かできれい。

跳鯨の潮騒をきく大目玉 石黒直子

普通耳で聞くと、大目玉で聞いたとしたところに新しみがある。中西…干潟の穴から、目玉だけ出して潮騒を聞いているユーモラスでかわいい跳鯨が見える。

鯉の背を踏まんばかりに鴨来たる

三森 梢

写生句。鴨密度の高い池で、鯉の背すれすれに飛ぶ鴨がユーモラスに描かれている。

中西…「踏まんばかりに」に鴨の着水の足が見えている。見たことをかなり強調しているが、より印象を鮮明にしている。

動くものなき日干し池秋立てり

井上田鶴

破調ではあるが、非常にしまっている。秋の日干し池の感じがよく出ている。中西…水を抜くと、鯉やブラックバスがぴちゃぴちゃ跳ねていてほしいところ。なんにもない、残念な感じが「動くものなき」に出ている。

ながあめの鯛はからくからく炊く

北杜 青

長雨だとなぜ辛く炊くのかはわからないが、そうだなあと納得してしまつた／実感だと思ふ。雨がしとしと降っているときに、薄く炊いた鯛は生臭くて食べたくない。しつかり炊けばもちもい。

中西…実感というより、ドラマチックで文学性の高い句。何がどうな

のかは関係なく、この句の世界で遊んでいればいいと思わせる句。

◎他の作品

紅葉山つかうかかと深入りす城中良
蟬に声を掛ければ睨みけり 酒匂了太
秋麗の街を引き寄せ赤城山 松井葉子
野良気取る猫の夜遊び藁ぼつち

住みなして稲穂の美しきところなり 大矢知順子

内堀は桜紅葉の大手門 小林 風
花野行二輛列車の切符買ふ 高橋 巨
縁側に母の髪梳く菊日和 永澤 功

◎中西夕紀さんの3句
日の差して幹に遠近菊脛
身じろがぬこと月光に習ひるる
窓拭きの人爽涼と下りて来ぬ

★たまたま当日、見学で初参加した方がいみじくも言った。「みなさん、明るい顔で次回もぜひ参加したい」と。以前には中西主宰に「そんな表現ごまんとある」「あなたの俳句はなつてない」と言われ、悔しくて飲みにいったこともあると言っていた同人の面々も、今や会を運営する中心メンバーとして大きく羽ばたいている。愛らしい笑顔で、全体をよく見て的確に指摘し、適材適所の役を与える。人を見る目、育てる力が確かなのだ。勉強したいなら「都市」へとと言われる所以だ。11月からはまた新たな支部ができ、来年3月からは首都圏の中学校、高校を対象に俳句教室をスタートするという。全体が熱心で情熱にあふれていた。(木戸敦子)



▲メンバーがどんどん増えるまさに「都市」!

阿部久美子様

(東京都港区)

『一番綺麗な青空』
『君に届けたくて』

もう10年も前に『一番綺麗な青空』、

『君に届けたくて』を出版した、現在は2つのオフィスの代表であり、メンタルトレーナーとして活躍されている阿部久美子さまにお話を聞きしました。

Q 本を出版したきっかけは？

あるスポーツ選手にプレゼントしようと思ったことがきっかけです。ありふれたプレゼントではなく、物語性のあつた詩に書きあげプレゼントしました。1冊作ると意欲が沸き、本が2冊できてしまいました。

喜怒哀楽書房さんには丁寧な綺麗な本を作っていたとき、時を越えて改めて感謝の心でいっぱいです。ありがとうございました。

Q なぜメンタルトレーナーに？

この世界に入ったのは、ある経営者の方にスカウトされたことがきっかけです。初期のクライアントは経営者の方とスポーツ選手でしたが、その後、スポーツ選手がさらに多くなり、音楽関係者、



▲半蔵門と青山にあるIMTメンタルオフィスの代表阿部久美子さま

技術専門職、外科医の先生など、担当するクライアントは多岐にわたるようになりしました。そして今も多くの経営者、役員の方を担当させていただいています。

Q どのようなメニューを行っているのですか？

メンタルトレーニングの技術、脳科学、心理学の技術を使っています。米国、カナダ、日本の技術、オリジナルの独自の技術です。

質の高いメンタルトレーニングができる者は日本でも数人です。特にイップスの治療ができる者は世界レベルでごく僅かです。

Q イップスとは？

イップスとは、精神的な原因等によりスポーツの動作に支障をきたし、思い通りのプレーができなくなる運動障害のことです。メンタルの世界は多くの勉強をしたからこの仕事に就けるとは限りません。

メンタルの専門家になるには資質が重要です。人との出会いも大切だと思います。

私は人との出会いからこの道に導かれ、情熱を持つてたゆまぬ努力を続けることができました。この仕事をするために生まれてきたと信じ抜くことができるのも、プラスの思い込みが原動力になっているかもしれません。

Q 資質ですか？

人の気持ちは言葉で伝えられますが、言葉以外の非言語のコミュニケーションからも心を観る力や、なぜか「安心する」「気づいたらたくさん話していた」と様々なことを感じ取るものです。

メンタルの世界は、資格の高さや役職では計れないお互いの心と心が感じる世界です。

Q 自身は疲れませんか？

時々疲れることもあります。好きな仕事ですし、この道で生きていくことに使命を感じています。言葉が相手の心に届くことを願いながら、でも押し付けにならないように心がけています。時間が空いたときは心の勉強も兼ねてよく映画を観ます。

別世界に身を置くことができますし、表情や言葉から主人公の心の流れを観ていきます。

また、言葉にならない想いも感じる事ができるので、映画は大好きです。

Q お疲れ気味の現代人にアドバイス！

何か困ったことが起きないと、人はなかなか自分の心に気づかず、心を見つめることができません。困った症状が出たり、不測の事態が起きたりということは、その人にとってはよくないことだと思ってもいいかもしれません。でも俯瞰的に見ると、だからこそより自分の心に気づけたり、周りの人に感謝する事ができたりといったプラスの方向に人生が動いていくことが多いのです。

心は見えないものだからこそ、自分の心の状態を把握して気づいて、感じることとはとても大切です。一日に一回、自分の心と向き合う時間を作れるといいですね。

そして、改めて木戸様には心から感謝しています。木戸様との出会いから



▲心から溢れ出るものを自然な形で書いたという『一番綺麗な青空』と『君に届けたくて』

私は運が上昇したと思います。これからも、たくさんの方が木戸様とご縁で幸せになつていかれることを心から祈り申し上げます。

『君に届けたくて』より

「ありがとう」

ありがとう

その一言が言いたくて

ずっと生きてきた

今まで素直に言えなかったから

ありがとう

僕は今

心から感謝して言える

ありがとう

君に逢えて嬉しかったよ

★その経営者の方は実に見る目がある。上品で、容姿同様に声も実にチャーミング。かるやかに歌うように話す阿部さまと、また会いたくなってしまう。その天性のものを持つてして、毎日何時間も人の話を聞き、月に100人以上、今までに2万人弱の方と相對してきた実績と。それらが結実して、現在はJOC(日本オリンピック委員会)の公式メンタルトレーナーとしても腕をふるう。5年後の東京オリンピックで活躍する日本選手を下支えする、このような素敵な存在に、ぜひ今後「括弧目」を！ (木戸敦子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は
 一人さま1作品、先着300名様までと
 させていただきます。何卒ご了承ください。
 ※しめぎり2016年1月15日(金)まで
 ※作品は原稿どおりに掲載しております。

短歌

- 1 運動会家族総出の応援に孫も真剣皆に答える 大鳥居牧子(東京都)
- 2 虐待の言葉みるたび思い出す子は宝とふ憶良のうたを 山田良男(埼玉県)
- 3 庭石にありし日の母掛けてゐるわが幼名をしきりに呼べり 渡部美代子(山形県)
- 4 降三世明王像を見しのにNGT なつちゃんに手をふりし日 安部哲(新潟県)
- 5 飛び入りの陛下の卓球とは頬笑まし別府太陽の家のニュース見て 今井忠一(東京都)
- 6 娘の生まれ祝うごとくに空澄みて君よ励めよ夫を助けて 土屋喜雄(山梨県)
- 7 土間に三日溢れていたる子孫らの靴失せ残るはサンダル二足 桑原謙一(群馬県)

- 8 飢ゑし世を語りてをれば幼子の蚤と虱を見たひとせがむ 黒澤正行(福島県)
- 9 屋久島に昭和三十年生集いきて還暦祝い肩抱きて泣く 濱崎祥子(鹿児島県)
- 10 播り鉢をわしが両手でおさえてる妻が擦ります夕餉の準備 藤原昭三(滋賀県)
- 11 この国に望みはあるか議論なき国会不要と七十路にして 早坂絃司(北海道)
- 12 三人の妻を看取りし医師祖父は白衣に念珠をおさめて逝きぬ 寒川靖子(香川県)
- 13 憲法の九条解釈けち付ける与党の頭の中を知りたい 濱田イサオ(福岡県)
- 14 懐先生政子先生建先生樟花先生逝きて久の夢 高須孝(愛知県)
- 15 わが持てる力もちて立ち上がるほかなきものと足慣らし踏む 青木日出男(群馬県)
- 16 人類は廃絶できず核兵器国益のエゴ地球消滅 北澤実夫(東京都)
- 17 娘より安否確認電話あり今日一日も励みて生きる 小暮昭司(群馬県)
- 18 棚田米天日干し済みご近所にセシウムないよと男を上げる 合田浩子(茨城県)
- 19 何もかもなげて散歩の夫といて先には逝けぬと吾が身をいとう 田中豊恵(新潟県)
- 20 教え子の訃報が届く年の暮れ賀状書く手のとどこほりつつ 坂元正憲(東京都)

- 21 ゆうぐれに谷川の水匂いたり水恋鳥の赤の一閃 北岡晃(兵庫県)
- 22 満りたる稲穂の原は滑走路白鷺達の着陸続く 音喜多千津子(埼玉県)
- 23 秋空に親子で散歩池の端かもを見ながらおむすび食べる 新井賢(埼玉県)
- 24 真昼時天空高くトンビ鳴き優雅な姿しばし楽しむ 高橋登志子(新潟県)
- 25 好きに生き泣かせた果てに車椅子介護の妻にざんげする日々 岩崎令子(大阪府)
- 26 終活にまだ鮮やかな夢を見る 木村洋一(新潟県)
- 27 蔵書サマ俺の寝る場所どこなのさ 植松興悦(山形県)
- 28 盗聴はお構いなしの糸電話 丸山芳夫(東京都)
- 29 年寄に成長よりも健康だ 原崇雄(埼玉県)
- 30 再会を誓い別れてそのまんま 山口千鶴子(東京都)
- 31 美人の湯個人差ありと書くべきよ 橋本世紀男(東京都)
- 32 あの色気何処に隠したお母ちゃん 関本守(新潟県)
- 33 出ないこと願う忌憚のない意見 小林七重(新潟県)
- 34 気がつけばヨイショに溺れ人は去り 西條公雄(埼玉県)

川柳



- 35 こだわりを捨てて広がるお付き合い 細川光子(栃木県)
- 36 これからも元気で居てねと手を握り 守屋高雄(岩手県)
- 37 ママになり着せ替え遊び子は迷惑 奥那於子(大阪府)
- 38 病院で葉書三通待ち時間 木村誠一(神奈川県)
- 39 酒やめて何の人生喜寿傘寿 藤沢健二(千葉県)
- 40 もう帰らぬ積もりで出ると辛いうそ 竹村穩夫(大阪府)
- 41 新之助と命名されし今年米 小山羊子(新潟県)
- 42 叫び合う夫婦喧嘩を聞いた町 小石澤英夫(東京都)
- 43 老眼鏡かけて見直す婆の皺 大久保アヤ子(東京都)
- 44 よく見ればダンブ運チャンヤングママ 山崎一嘉(愛媛県)
- 45 歯の治療美人の顔を歪ませる 目黒豊光(福島県)
- 46 微罪まだ犯し続けて八十路生く 久本に地(岡山県)
- 47 民意とは逆走安倍のハイウェイ 高原まさし(福井県)
- 48 脱ぎ切つて真の裸になれますか 野田明夢(新潟県)
- 49 年重ね声は大きく耳遠く 福地義雄(沖縄県)



俳句

- 50 今日明日と時は何処渡り鳥
天野輝子(東京都)
- 51 あき間あり風鈴の音に立ちどまる
松涛千鶴子(東京都)
- 52 城朽ちて色なき風の吹き抜けり
佐々木素風(新潟県)
- 53 望月や待ちし川面ににゅつと出る
松田重信(埼玉県)
- 54 誕生も死もひとりぼち曼珠沙華
川口襄(埼玉県)
- 55 近寄れば目尻にほくろ女郎花
富高くにひろ(埼玉県)
- 56 切り株にそこから成して枇杷の花
須澤重雄(長野県)
- 57 関守の喉滑らかや麦とろろ
緑川禎男(埼玉県)
- 58 立冬の旭日に襟正しけり
大谷茂(埼玉県)
- 59 マラソンの若き集団秋日和
竹本美美子(新潟県)
- 60 菊贍父似の兄の語り口
川嶋法子(東京都)
- 61 秋風やつまずく小石に齡知る
野村牟人(東京都)
- 62 秋澄みて地球愈々丸くなる
小島岳青(新潟県)
- 63 秋うらら歩けることは老いぬこと
大阿久雅子(埼玉県)
- 64 秋深し別れの言葉なき別れ
堅田秀子(東京都)
- 65 故郷の海に涙や遠い秋
松尾らん(東京都)
- 66 紅さして老婆持ち来る秋海棠
水落重式(新潟県)
- 67 わが歩み静かなるとき月もまた
渡邊清(宮城県)
- 68 亡き人を思う刻なり十三夜
渡辺由美子(宮城県)
- 69 萩多き若狭小浜の寺巡る
田野倉訓郎(東京都)
- 70 風無くも手まねく妣か彼岸花
磯部力(新潟県)
- 71 縄の先土間に伸び行く夜なべかな
吉村充治(埼玉県)
- 72 仏手柑キリリキリリとネジを巻く
白戸麻奈(東京都)
- 73 秋高し大漁に湧く浜景気
古谷力(東京都)
- 74 ともし火の恋しき頃やそぞろ寒む
林 克(福島県)
- 75 山麓の学寮点る良夜かな
津田忠彦(岡山県)
- 76 秋蝶の二匹トレモ口調に飛ぶ
湯浅芳郎(岡山県)
- 77 草紅葉また新しき売地札
大橋恒次(新潟県)
- 78 白菊に軽きくちづけ別離の夜
二瓶邦枝(埼玉県)
- 79 親分の赤城の山の鳥甲
吉里ひとみ(東京都)
- 80 吊り古りて秋の簾となりにけり
菅原茂子(宮城県)
- 81 諍の後に好物根深汁
大塚徳子(埼玉県)
- 82 福耳の布袋を拭ふ秋灯下
神一男(静岡県)
- 83 冷ややかな空気朝日と青空と
木下精(大阪府)
- 84 惜別の夕昏れたたむ秋日傘
岡村イト子(東京都)
- 85 龍田姫綺羅なす山の日和かな
澤雅子(大阪府)
- 86 積極的平和とは何秋の風
石尾曠師朗(東京都)
- 87 水澄めり理論の好きな彼が好き
大窪美代子(大阪府)
- 88 戦地からの手紙は遺品終戦日
山崎吉晴(群馬県)
- 89 老犬と銀杏拾い冬を待つ
大橋絵代(千葉県)
- 90 伸びきつてコスモスの花重たさう
古川正栄(千葉県)
- 91 あまたなる悔いそのままに忘年会
長峰正晴(千葉県)
- 92 田仕舞の火くすぶりて越の空
上村元義(神奈川県)
- 93 やわらかき日差となりし枯尾花
内河邦久(東京都)
- 94 はじめての八十路の坂や冬帽子
寺内信(埼玉県)
- 95 秋深し青空背追ひ布団干す
小泉和明(茨城県)
- 96 生きている国勢調査や秋めぐる
栗原黎(群馬県)
- 97 賀状書く独り善がりの句を添えて
阿部徳夫(宮城県)
- 98 花芙蓉海を見下ろす異人館
山本直子(大阪府)
- 99 生垣の茶の花蔭の薄明り
中嶋清子(佐賀県)
- 100 美しき銀杏枯華の舞ふ風に
山本理香(大阪府)
- 101 傘寿翁借りて借りられ運動会
土谷敏雄(秋田県)
- 102 新涼や女の多き夢二展
宮宅芳子(岡山県)
- 103 古い入れば鼻の先まで小鳥来る
炭崎博(滋賀県)
- 104 山裾に夕日を羽織るそばの花
田中昶(鳥取県)
- 105 競はざる音色になりし残る虫
今井勝子(新潟県)
- 106 秋晴れや人生行路米寿かな
花塚三郎(千葉県)
- 107 煤逃げを黙認さるる寂しさよ
井上静夫(栃木県)
- 108 つながらぬスプーンですする走りそは
三津木俊幸(千葉県)
- 109 古い二人炬燵囲みて春を待つ
杉村美保子(岩手県)
- 110 健啖と太き一筆十三夜
有坂馨園(福島県)
- 111 風迷ふほどコスモスの乱れ咲き
佐野和彦(静岡県)
- 112 柿紅葉初冠雪の富士の嶺
渡邊碧海(静岡県)
- 113 たこ焼のくると秋が裏返る
羽根田明(神奈川県)
- 114 水音に紅葉且つ散る古窯跡
小澤円梨(静岡県)
- 115 月草の露の命や一輪挿
山本勝美(滋賀県)
- 116 名刹の庭敷き詰めし銀杏黄葉
杉原明子(静岡県)
- 117 そぞろ寒む地球破滅の宇宙戦
菅井文男(新潟県)
- 118 夫婦木の寄り添ふ月日山の秋
堀田寿美子(北海道)
- 119 独白に手組み思案の秋の風
浦橋渴雪(兵庫県)
- 120 七十年ずうつこの道秋刀魚焼く
井田由利子(宮城県)

- 121 ゆるやかな日差し楽しみ障子はる
鈴木みえ(長野県)
- 122 秋茄子や子の新妻のよく笑ふ
一瀬正子(埼玉県)
- 123 山二つ越えて秘湯の紅葉かな
松前邦広(千葉県)
- 124 生き方も少し変えたき夜の秋
青木ケン子(埼玉県)
- 125 秋日和一本松に波ひびく
関原幸子(東京都)
- 126 時雨るるや女人高野をひた登る
増本和子(大阪府)
- 127 昭和史を丸ごと生きて敗戦日
野木宗信(奈良県)
- 128 歳時記を開く楽しみ初句会
村田吉雄(東京都)
- 129 役済みて戻るふる里菊日和
岡村君枝(茨城県)
- 130 野地蔵の出会いと別れ落葉径
中田文子(大阪府)
- 131 己が顔池面に映る良夜かな
岩田信(神奈川県)
- 132 TPP足で立てるか秋に入る
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 133 秋晴れや遠き白雲身を乗せて
田野井一夫(栃木県)
- 134 背中美人にモンローのかけ秋猛る
星一子(神奈川県)
- 135 豆を食べ働きぬいてお正月
湯浅暉子(石川県)
- 136 棺四つ左端は吾か蚯蚓鳴く
加用章勝(千葉県)
- 137 平和なる国に生かされ文化の日
道給一恵(埼玉県)
- 138 秋晴や妻の手を引き二科展へ
小林春雪(新潟県)
- 139 木犀の香りをくぐり秋祭り
長谷部喜代子(大阪府)
- 140 人の世は単線ならず柿紅葉
岩村昇(神奈川県)
- 141 波の音つかず離れず秋の航
高杉杜詩花(北海道)
- 142 川べりの村はふるさと草の花
松嶋光秋(東京都)
- 143 血管の浮く手まじまじ秋思かな
宮本幸子(埼玉県)
- 144 月待ちの蒸籠の噴きし広場かな
邑橋節夫(兵庫県)
- 145 此れからの先の人生竹の春
田中恵美子(山形県)
- 146 地に在りて穂粟はさむ靴の先
中村和弘(愛知県)
- 147 意地などと言うに及ばず穴まじい
池田岬(埼玉県)
- 148 まだ揺れる風評話稲を刈る
鈴木蝶次(宮城県)
- 149 さよならは次の期待冬薔薇
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 150 今生の南無阿弥陀仏菊薫る
井上氣海(広島県)
- 151 赤蜻蛉曼珠沙華彼岸には
五味田幸夫(神奈川県)
- 152 身に入むや捨てたつもりが捨てされず
早乙女文子(埼玉県)
- 153 等身の世相案山子の並びをり
青木涼子(埼玉県)
- 154 落葉舞う行き交う人の足早く
針生清(千葉県)
- 155 着ぶくれを恥づる回廊永平寺
大矢知順子(神奈川県)
- 156 平和とは怒号野次なき芒原
木村舩(山形県)
- 157 組体操の土台ぐらぐら秋高し
飯塚不二男(新潟県)
- 158 懸崖の菊見事なり中尊寺
杉江典子(岩手県)
- 159 推敲を終へて気付ける虫の声
中野勝子(鹿児島県)
- 160 爺の背おしゃぶりほのと薄紅葉
菅原キイ子(宮城県)
- 161 ありふれたことの尊き柿たわわ
浅野信廣(宮城県)
- 162 美酒新酒一杯一杯復一杯
増田公代(東京都)
- 163 幾年を月と語りし手酌かな
高垣勝代(大阪府)
- 164 人形焼買って初冬の隅田川
服部八重子(東京都)
- 165 落ち葉舞う歩道に我の影ひとつ
若月理依子(新潟県)
- 166 鷺鳴きてつるべ落としの家路行く
沖惇子(大阪府)
- 167 菊人形花燃ゆ美和の清々し
津布久信雄(東京都)
- 168 いつしかに庭も色褪せ今朝の秋
柴田恵美子(北海道)
- 169 路地裏のよもやま話草の花
岡野智恵子(埼玉県)
- 170 玉音も遠き遠き日蟬時雨
本間ミネ(新潟県)
- 171 ゆく秋や海峡遙か細かこと
中川義彦(新潟県)
- 172 コスモスや風の乗客無人駅
本間進(新潟県)
- 173 紅葉かつ散りて残照束の間に
長野光康(神奈川県)
- 174 見当らぬ主の句はなし秋惜しむ
宇田川正雄(埼玉県)
- 175 踏切で待つ間の釣瓶落しかな
永井俊樹(兵庫県)
- 176 知足てふ円形の文字石路の花
長谷川正(東京都)
- 177 紅葉一本に秋が来ている
白松一良(千葉県)
- 178 三世代揃ひ注文鯛大根
倉田淑子(東京都)

フォトイック

(写真で一句)

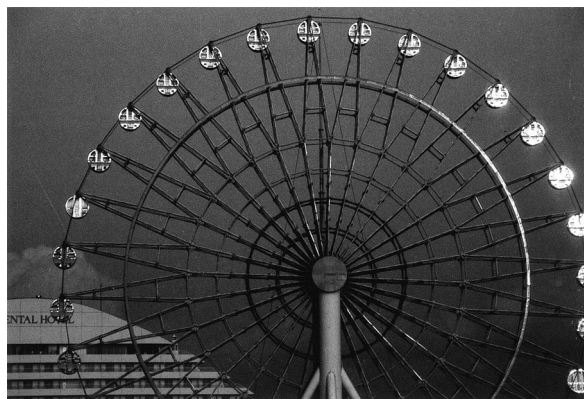
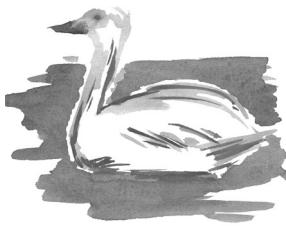


(写真提供…伊丹三樹彦さん)
こちらの写真を見て
詠んでいただきました。

フォトイック

- 179 『母』と子か全ての『愛』がここに居る
安木沢修風(新潟県)
- 180 将来の美女の片鱗秋日和
井原毬子(東京都)

- 181 汗ばんだ手をはなさない幼き子
浅海和代(東京都)
- 182 をさな児の芸ごと仕舞ひ秋なすむ
千代田俳徒(東京都)
- 183 盛装の靴が鳴ります七五三
阿部至(埼玉県)
- 184 つなぐ手はやがて組む手と親ごころ
杉浦重行(東京都)
- 185 もういやだババの歩幅が速すぎる
本間道子(新潟県)
- 186 ママつかれたもうすぐそこよオモチャ
やは
石原岳(群馬県)
- 187 母の日の父子の選びしプレゼント
近藤薫也(千葉県)
- 188 愛情の固まり繋ぐ日の短か
福岡悟(東京都)
- 189 宥めたりすかしたり行く晩夏光
片山茂子(埼玉県)
- 190 パパに手をひかれヂヂ様待つ家へ
檜山とり子(東京都)
- 191 手を引かれしおぶ歩く女の子
成田節子(山形県)
- 192 もう少し歩こう家かもう直ぐだ
岩崎政弘(岡山県)
- 193 ママ早いよゆつくりいこうお買い物
高松秋良(群馬県)
- 194 足どりに疲れのみゆる夏の果て
平山千江(岩手県)
- 195 スイーツはまーだなの？パパ秋うらら
鈴木岑夫(千葉県)
- 196 さまがわりイクメンとゆく七五三
齊藤安弘(神奈川県)
- 197 ん・もういや、ダッコおっぱいのびた手
が
佐伯セツ子(香川県)
- 198 そっくりだな娘を思い出す一才頃
小山惠美子(大阪府)
- 199 ママ待つて!! あんよがついていけないよ
柳澤京子(宮城県)
- 200 離してよあんた私のなんなのさ
阿部澄江(宮城県)
- 201 白い靴二度と戻れぬ幼き日
高崎登喜子(東京都)
- 202 「赤いくつ」の児は人生の秋を迎え
有田裕子(北海道)
- 203 小春日和どこへもお嬢の手を引いて
居原田連星(大阪府)
- 204 おめかしの心弾まぬおでかけ日
角谷不二(新潟県)
- 205 手を引かれ笑い声満つ秋高し
堀木和子(大阪府)
- 206 パパの足ついてく私つかれるわ
清まさじ(静岡県)
- 207 夏の夕わたし一人で歩けるよ
津田吾燈人(高知県)
- 208 転びそう「でこぼこあるよ」ねえマ
マったらあ
益永克之(福岡県)
- 209 見て見て! おしゃれなアタシとカレシ
もね!
萬濃その子(神奈川県)
- 210 パリの秋小ちやな靴音石畳
梶鴻風(北海道)
- 211 あれほしい、これも買ったしさあ帰ろ
鈴木義雄(福島県)
- 212 父さん、あまりいそがんで
森俊彦(神奈川県)
- 213 七〇年父征きしまま夏終わる
中山日出子(大阪府)
- 214 お洒落してママと一緒に買い物
和崎治人(山口県)
- 215 おしえてママほんとのパパどこのひ
と
北野耕兵(千葉県)
- 216 疲れたと歩幅の拗ねる幼かな
村山徳英(埼玉県)
- 217 御洒落してママと買物まあだア!!
油谷博子(兵庫県)
- 218 帰り道抱っこしてよと言いたくて
藤井春三(埼玉県)
- 219 秋なれや歩幅の違ふ親子づれ
勝田久美(大阪府)
- 220 白い靴はいる青い眼の人影
坪田勝秀(鹿児島県)
- 221 駅まではもうちよつとだよがんばって
山中たい子(大阪府)
- 222 この愛を離さないでと小さな手
中林恵子(大阪府)
- 223 しゃれたのよ前からきちんと写して
よ
富樫和子(山形県)
- 224 ママおんぶママも手荷物重いから
重原昇(新潟県)
- 225 早よ行こう買ったアイスが溶けちゃう
よ
鏡たか子(山形県)
- 226 ママつたらもつとゆつくり歩いてね
高柳閑雲(愛知県)
- 227 もう少し遊びたいのに手を引かれ
黒岩正子(埼玉県)
- 228 赤い靴はいたあの子いま何処
杉浦俊雄(静岡県)
- 229 お買物まだあるのママつかれたわ
駒場京子(神奈川県)
- 230 発表会おしゃれ手間取る白い靴
中島光江(埼玉県)



(写真提供: 伊丹三樹彦さん)

❖❖❖❖❖
フォトイックも3回目。ますます多く
のご投稿をいただきありがとうございます
ます!!
王道あり、ひねりあり、アハハにイラ
イラにしみじみありと、まさに十人十色
の喜怒哀楽劇場。標語のような句しか
できないわが身をうらめしく思いつつ、
皆さまの豊かな発想のイックを読むこと
が楽しみです。次回も今回に引き続き、
元「青玄」主幹の伊丹三樹彦さんの写
真です。ふるってご投稿ください!

●俳句・川柳募集!!

右の写真から、自由にイメージし17文字
(俳句か川柳)で表現してください。1枚の
写真から想起される世界は無限大です。応
募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニ
クなイック(2句)をお待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

◎川柳部門大賞
3 青年よギターが武器に変わるかも
山口千鶴子(東京都)



山口千鶴子様

・君達が動かさずして誰が動く 富高くにひろ(埼玉県)・集団的自衛権をやゆしている 土屋喜雄(山梨県)・やわらかく非戦を訴えている 高原まさし(福井県)・戦争反対、九条守れ 鏡たか子(山形県)

【自句自解】

実は十月号には短歌を投稿しました。ふざけた歌で短歌ファンから怒られそうでした。その後国会では安保法案が成立がっかり、テレビでは若者がギターを抱えて歌っていました。ギターと武器が交叉して一瞬にして一句出来ました。時事川柳は時効があるので句なうちにと思ひ急遽短歌を没にしてもらいこの句に差し替えた曰付きのものです。ちなみにそのボツにした一首「あの世にはお役所は無し現世にて婚姻届け出す老いの恋」。

◎俳句部門大賞

54 一生は一幕限り蟬時雨
川口 襄(埼玉県)



川口 襄様

・父亡き後、家族との日々今限り。私の人生も今を大切に 大橋絵代(千葉県)・蟬の一生は短い。我々の一生もたった一回。改めて生を満喫せねばと思わせ

た句 長峰正晴(千葉県)・くり返すこととはなく一度。大事に生きたいものです 寺内侘(埼玉県)・米寿を越えるところのような心境になります。将に一生は一幕：一日一生です 阿部徳夫(宮城県)・中世の「一幕限り」いい得て妙なり。やり直しなしか 田中昶(鳥取県)・その一幕に人間はどうして悩むのでしょうか

池田岬(埼玉県)・七転び八起きの人生活であつても一幕限りなのだと。蟬よりは長命だが 早乙女文子(埼玉県)・人の一生と蟬の一生は一幕限りであると。深い句に感動です 中川義彦(新潟県)

【自句自解】

「一生」は神により万物に平等に与えられるもので、そして全てが一度限り与えられるもので、やり直しは利かない。また「一幕」は演劇などで舞台の幕を開けてから閉じるまでの間に演じられる一区切りである。

蟬は幼虫として地下生活期間は数年間だが、地上に出るからは数日間の命である。その数日間、生命を謳歌する如く鳴き続け、そしてあつてなく潔く地面にひっくりかえって死んでゆく。私も蟬の生き方に学びたいと思う。

◎短歌部門大賞

176 うばわれし命に手向く花束に無情の雨の降りしきる夏
岩崎令子(大阪府)



岩崎令子様

・自然災害、事件、事故の絶えない夏に涙しました 齊藤安弘(神奈川県)・この夏不条理に命がうばわれるできごと

が多かった。花束に無情の雨 桑原謙一(群馬県)・寒暖の極端化・病む地球 黒澤正行(福島県)

【自句自解】

この度私の短歌に嬉しい評価を戴き有難うございます。関西在住の私にとつては連日の報道で、悲しい事件「中学生二人の殺害」に心を痛め、犯人が逮捕された今でも黙秘が続いている状況に、ご遺族の悲しみは勿論ですが、周りの大人が手を差しのべてあげられなかった反省と共に重い現実を受けとめての越年になりました。先日、戦後七十年の節目に原爆ドームを訪れ「生命の尊さ」を再確認。生きている(生かさされている) 幸せに改めて感謝の日々をおくっています。

◎フォトイック部門大賞

202 杖の身を待ちて振向く秋うらら
堀木和子(大阪府)



堀木和子様



・老主人への温かい思いやり 阿部至埼玉県)・足の悪い主を気遣う愛犬、散歩日和だからもう少し歩きましょうと言っているよう 大阿久雅子(埼玉県)・散歩中でしょうか。足の遅い老主人を止まって待っているやさしい犬のまなざしがよい 岡村君枝(茨城県)

【自句自解】

いつもの散歩道、いつものようにいつて来た愛犬が、先に行つては立ち止り、二三歩行つては振り向いて、杖の身を案じる仕草が何ともいとおしい。振り向いた愛犬がしっぽを立て、元気な日本犬である

ることが、八十八歳の私には、一層たのもしく思われ、秋の陽がまぶしい、倅せなひとときを味わうことが出来ました。

【川柳】

1 九条を反対に解釈する与党
守屋高雄(岩手県)

・表現の仕方もこういうのもあるのか。実にうまい。参考にした。石原岳(群馬県)・憲法九条は全ての国民の解釈は同じはずである。与党は憲法を代える方向に進むべきでは 濱田イサオ(福岡県)ほか

【俳句】

142 新米に郷土新聞添へてあり
鮫島茂利(兵庫県)

・届いた新米に郷土新聞とはあたたい心づくしですね。新米がいつそうおいしかったことでしょう 宮宅芳子(岡山県)・米造りの人のひかえめなプレゼン。素朴でちよつぱり誇りもみえて秋は心も清々しいです 中山日出子(大阪府)ほか

【短歌】

156 積極的平和と総理いうたびにむなしさつり怒りこみあぐ
黒澤正行(福島県)

・同感です。ますます政治不信になりました 成田節子(山形県)・代弁しているようで気持よい 栗原黎(群馬県)ほか

【フォトイック】

219 墓参途次犬を待たせる老の足
村山徳英(埼玉県)

・愛犬が老主人の歩みを優しく待つ千代田栄次(東京都)・待つてくれているんですね。老の足を：優しい見方です 増本和子(大阪府)ほか
※今後ふるってご投稿をお願いいたします！

A Q U E S T I O N N A I R E

前回のアンケート

Q.あなたが好きな鍋は何ですか？

※紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できません。ことをお詫び申し上げます。



★寄せ鍋

・具が何でもありですし、冷蔵庫の中を整理でき材料がすっきりする為。野菜もいっぱい食べられますし

・海鮮主体の寄せ鍋 さまざまな味のハーモニーがたまりません
大鳥居牧子(東京都)

・庶民派の「寄せ鍋」最高!!
小林七重(新潟県)

・家族で食すよせなべは最高です。おまけに主婦も楽です。すわっていられます!!
二瓶邦枝(埼玉県)

・誰もが好きのポピュラーな鍋
齊藤安弘(神奈川県)

・冷蔵庫の余りものに野菜や魚介類をたっぷり入れて、鍋の時は稼いでいる娘に「今日鍋だから寄らない?」とメールで呼び寄せます
高崎登喜子(東京都)

・鍋の底に昆布を敷き正油たれは中央に具材は豆腐、白菜、ネギ、キノコ、牡蠣や鱈の身、大に馳走である
菅井文男(新潟県)

・ありあわせの野菜を使つて皆でわいわいと鍋をかこむ 鈴木みえ(長野県)
・たら、かきは必須。最後は雑炊にしてめる
小山羊子(新潟県)

・色々入つて心も体もポカポカ

・湯気立つ向いの妻と会話温る
星一子(神奈川県)

・仲間達と騒ぎながら食べると最高です
井上氣海(広島県)

・冬期は一人鍋で夜長を楽しんでいきます
沖惇子(大阪府)ほか

★すきやき
・松茸を入れたすき焼き鍋。たまらないうい!
松田重信(埼玉県)

・濃甘辛さに御飯がすすみます
大阿久雅子(埼玉県)

・肉と白たぎと玉子の一口が好き
片山茂子(埼玉県)

・焼豆腐、糸こんにゃく、肉、ねぎ、冬はこれに限りです
神一男(静岡県)

・最後にうどんを入れると次の日もおいしく食べられるのでよい
山崎吉晴(群馬県)

・にぎやかに食べるのが好きです!!
大橋絵代(千葉県)

・熱い具を溶き卵に入れて食べる、牛肉の甘さが一番 長峰正晴(千葉県)

・鋤焼は、鍋ものでないという人もいますが、牛鍋という別称があります
今井勝子(新潟県)

・単身出向の時は週一で食べていました
井上静夫(栃木県)
・これから寒くなりますと家族で囲みまして頂きます 道給一恵(埼玉県)
・若い時、銀座で食べた味が忘れられない
村山徳英(埼玉県)
・お酒もご飯もすすみます
赤塚五行(新潟県)

・年の暮は国産牛で豪華に

・翌日残つたつゆにごはんと卵でおじやにして食べるのが楽しみです
合田浩子(茨城県)

・糸こんにゃくと肉のうまみのからまりが大好きです 黒岩正子(埼玉県)
・ゴボウのだしが特に良いですね
音喜多千津子(埼玉県)

★かき鍋
・広島で育ち、やっぱり鍋はかき鍋最高です
中川義彦(新潟県)ほか

・これからはカキ鍋がおすめだろうと思います
堅田秀子(東京都)

・牡蠣の土手鍋 油谷博子(兵庫県)

・ビールがすすみます
稲葉民雄(千葉県)ほか



★おでん

・コンビニで買うおでんより自分で作った方がずーっとおいしいです
山口千鶴子(東京都)

・よく煮えた大根が好きです
本間道子(新潟県)

・特にボールとちくわぶが好き
寺内信(埼玉県)

・肌寒くなつて来たためらまず一番に食べたくなる 有島和子(東京都)
・おでん(田楽)ですね。豆腐、里芋、はんぺん、つみれ等
早乙女文子(埼玉県)ほか

★鱈鍋

・湯豆腐にたらを加え葱やほうれん草を入れて:
浅海和代(東京都)

・畑から採つた白菜にネギと春菊。地元産の豆腐にたらを入れたシンプルなたらチリ鍋
桑原謙一(群馬県)ほか

★湯豆腐
・夕食に揃う人数は日によつてまちまち。何人でも家族の団欒の一役には
川嶋法子(東京都)

・単純な湯豆腐が好きだなあ
藤沢健二(千葉県)

・薬味に凝る。アサツキ、炒りゴマ、生姜、練りみそ、おろし大根、刻んだ三つ葉、だし入りしょうゆ...などなど。器にも勿論凝りますよ
萬濃その子(神奈川県)

・毎日のように食べても倦まないのは湯豆腐鍋 奥那於子(大阪府)

・豆腐、椎茸、白菜等いれ、かぼすをしばつて入れる
大久保アヤ子(東京都)

・白菜、豚肉を少し入れた物。
駒場京子(神奈川県)ほか

★ふぐ鍋
・つつちり 大窪美代子(大阪府)

・ふぐ鍋でしょう 内河邦久(東京都)

・ふぐちり 新井賢(埼玉県)ほか

★あんこう鍋
・大洗で食べた味が忘れられない
吉村充治(埼玉県)
・独特の美味がルイを見ない
有坂馨園(福島県)ほか

A Q U E S T I O N N A I R E

★ちゃんこ鍋

- ・魚、肉、野菜など適当に入れ気軽に安価でおいしい 須澤重雄(長野県)
- ・名古屋地方は赤ミンが主体です。豚、ネギ等をちゃんこ鍋風にいただいて「豚ナベ」を食します

★キムチ鍋

- ・中村和弘(愛知県)
- ・からくからくしていただきます
- ・寒川靖子(香川県)
- ・娘の手作りで家族にふるまってくれてより好きになり時々たのしんでいます

★水炊き

- ・堀田寿美子(北海道)ほか
- ・白菜、野菜、トーフ
- ・中嶋清子(佐賀県)
- ・お豆腐と野菜たっぷりの水炊き鍋
- ・池田岬(埼玉県)
- ・鶏の水炊き(鶏鍋)

★郷土鍋

- ・山中たい子(大阪府)ほか
- ・「新潟鍋」(?)が好き。(別称「母の鍋」といいます) 安木沢修風(新潟県)
- ・どうんがら汁 鱈に野菜を混ぜ味噌で味つけた庄内地方の鍋です
- ・松尾らん(東京都)

- ・山形ならではのいも煮なべです。里いも、牛肉… 渡部美代子(山形県)
- ・具沢山ののっぺい汁です
- ・成田節子(山形県)

- ・しよつる鍋 日本海の荒波を思い独特の味が好き
- ・高松秋良(群馬県)



- ・郷土色という点ではキリタンポ鍋。秋田ならではのもの
- ・石尾曠師朗(東京都)
- ・親鶏と根の長いせりの入っているきりたんぼ
- ・富樫和子(山形県)
- ・きりたんぼ鍋、豆乳鍋
- ・井田由利子(宮城県)
- ・鮭のチャンチャン焼き(鉄板)
- ・早坂紘司(北海道)
- ・野菜具沢山の石狩鍋 温まります
- ・木村誠一(神奈川県)
- ・デイサービスで石狩鍋。汁がおいしい
- ・宇田川正雄(埼玉県)
- ・もつ鍋、筑豊ですもの
- ・濱田イサオ(福岡県)
- ・じんぎすかん鍋(遠野名物です。じんぎすかんマラソンもあります)
- ・杉村美保子(岩手県)
- ・うどんすき鍋(大阪名物)
- ・堀木和子(大阪府)
- ・久絵鍋。土佐は魚がおいしい所ですよ
- ・津田吾燈人(高知県)
- ・石狩鍋、蛸しゃぶ
- ・梶鴻風(北海道)
- ・もつ鍋
- ・浦橋克行(兵庫県)
- ・札幌市に20年間住みましたので石狩鍋がなつかしいです
- ・小林春雪(新潟県)ほか

★その他

- ・ポトフ
- ・木村洋一(新潟県)
- ・主人が鍋奉行をしてきていたのでどんな鍋でも好きです!!
- ・井原毬子(東京都)
- ・「少量の焼酎」に「少量のもつ煮」もあれば(もつ鍋) 千代田栄次(東京都)
- ・土手鍋(味噌と具の調和がたまらなくよい)
- ・山田楽山(埼玉県)
- ・野村牟人(東京都)
- ・金眼鯛鍋
- ・小島岳青(新潟県)
- ・桜鍋

- ・馬肉の野菜鍋 近藤薫也(千葉県)
- ・冬はやつぱり「中華なべ」あたたまります
- ・石原岳(群馬県)
- ・シーチキンと白菜だけを鍋にいれ、とろとろと煮ると白菜の水分がでていい味となるシーチキン鍋
- ・白戸麻奈(東京都)
- ・子供のとき食べた「鯨汁鍋」(クジラの皮)をたべてみたい。甘みのあるあぶらっぽさが大根、芋をとでもおいしくしていました
- ・鈴木岑夫(千葉県)
- ・豆腐鍋
- ・木下精(大阪府)
- ・我家流鍋
- ・黒澤正行(福島県)
- ・屋久島で育ったサバスキ(鯖をサシミのように切り肉の代りに、野菜をスキヤキ風にした)鍋、新しいサバが手に入ると作ります
- ・濱崎祥子(鹿児島県)
- ・豚の水煮が好きです
- ・澤雅子(大阪府)
- ・豆乳鍋(季節の野菜を沢山入れる)
- ・栗原黎(群馬県)
- ・豚しゃぶ鍋。あつさりとした鍋が好き。ポン酢をかけて
- ・山本直子(大阪府)
- ・精進鍋。田舎では油揚げがメインで、坊さんのつやつやした顔を思い浮かべながら野菜を油揚げと砂糖で味付けしてたらふく食った
- ・居原田連星(大阪府)
- ・カニ鍋後のぞうすい
- ・山本理香(大阪府)
- ・鹿鍋
- ・角谷輝彦(新潟県)
- ・四川の火鍋
- ・三津木俊幸(千葉県)
- ・急の寒さは何鍋でも良く年と共にからくなく、かたく大きい具でなければ嬉しい
- ・高須孝(愛知県)
- ・杉浦俊雄(静岡県)
- ・ごった煮

鍋焼きうどんはお酒のあとには大好き

- ・羽根田明(神奈川県)
- ・特上牛肉と野菜、トーフが私は好きです
- ・松尾正一(岩手県)
- ・山賊鍋。山の幸がどっさり。猪肉、豚肉、鶏肉、お好みで、牛肉もあるよ!
- ・野菜はお代わり自由の鍋物です
- ・益永克之(福岡県)
- ・ポタン鍋(しし鍋)
- ・高原まさし(福井県)
- ・やながわ
- ・森俊彦(神奈川県)
- ・蟹鍋です。あとの雑炊の微妙な甘味もたまらなく美味
- ・増本和子(大阪府)
- ・猪鍋 精がつくというらしいが?その歳でその鍋を食べると鼻血が出るよと言われました
- ・野木宗信(奈良県)
- ・はりはり鍋 水菜と鯨だけ。鯨が手にはいらないので豚肉でします
- ・中山日出子(大阪府)
- ・豚肉と白菜のぐるぐるあわせ鍋
- ・北野耕兵(千葉県)
- ・①蟹鍋 山陰に住む者にとってズワイガニ(松葉蟹)の鍋は最高。客人にもとても喜ばれる。②牡丹鍋 娘が嫁いでいる丹波篠山の猪鍋も独特の深い味わいが美味
- ・邑橋節夫(兵庫県)
- ・常夜鍋
- ・大矢知順子(神奈川県)
- ・貝が色々入った鍋です。味が複雑で大好きです
- ・木村舂(山形県)
- ・妻が四足は嫌いで鶏肉が好物「かも鍋」です
- ・青木日出男(群馬県)
- ・塩味のとり鍋。しめのラーメンがたまりません
- ・若月理依子(新潟県)ほか



10月号へお寄せいただいたお声、ほんの一部ですがご紹介いたします！皆様の温かい感想、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつけられています。今号へのお声も、お待ちしております。

- ・ 菜根譚。高校三年生の朝のホームルームにみんなに読ませていろいろ話し合っています。ありがとうございます。高校生の教育にとっても役立っています。
- ・ きみ句会、楽しさが伝わってきてうらやましい。一回参加してみたい。
- ・ インタビューにお応えする新潟弁をまじえての高野茂氏の生き方はすばらしい！大いに元気をもらいました。
- ・ フォトイックの投稿の増えているのに驚きました。自分にはとても作れないと思っていましたが今回挑戦しました。頭脳の活性化になればとがんばります。
- ・ フォトイックの投稿者が増えた分、俳句の掲載が少なくなり残念です。
- ・ 運動会では沢山のドラマと楽しさ悔しさの思い出があります。スタッフの皆さんの思い出も人それぞれで、自分の小学生の頃を懐かしく思いました。
- ・ 岡倉天心といがたの画家。日本の伝統美術を守った画家達の苦闘を知る事ができました。
- ・ 仲秋のピアガーデン 名月を愛でながらの生ビール、たまりませんね！
- ・ 新潟ぶらり ますます新潟に旅をしたくなりました。
- ・ 「ごうごうおじいさん」を読んで苦しみながらがんばる姿に感動しました。
- ・ 表紙もみじの紅葉と題字が赤で美しく感じた。
- ・ いつも思うのです。どなたも長い年月詩歌作りに励んでこられた。私も続けられるかしら、と。
- ・ いつも新鮮な各地の便りが伺えてうれしいです。

新潟ぶらり

＊マリリンピア日本海―新潟市水族館

新潟市の市政施行二百年を記念して、一九九〇年にオープンし、一昨年にリニューアルしたマリリンピア。この愛称はMARINE(海)とUTOPIA(理想郷)を合わせた造語で、環境や水生生物との出会いや夢・期待を表しているという。クロマツの砂防林をこえ、日本海をのぞむマリリンピアへ向かった。

当水族館は、日本海や信濃川等地域の特性を活かした展示があるほか、解説も充実している。トドの給餌からみていくことにした。間近にみるトドは、本当に大きい。給餌をしつつ、トドの生態や体のつくり、生息環境について解説がある。一日あたり五十キロものホッケを食べること、体重が季節を通して変わること(五百キロ→トン)、トドの別名はシーライオンで鳴き声がライオンにそっくりなこと(実際に声をきかせてくれる！)、海では駆除の対象になっていること等々、一つひとつにびっくり。ペンギンも現在減少しているとの事。

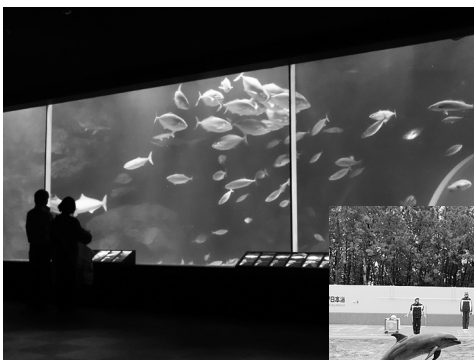
巣穴の場所や餌となるカタクチイワシが減ったことが原因だと聞き、環境について自然と思いが至る。ふさふさした羽毛、びゅんびゅん泳ぐ速さ(時速11キロ)、餌は鱗が引つかからないように必ず頭から食べる様子など、その生態を間近に観察できる。

花形のイルカショーは必見。まだ新入りなのか、小さなイルカが精一杯頑張

張っていた。感情移入してしまう観客も多いようで、ジャンプをすると波しぶきとともに、歓声と拍手がおこる。トレーナーを信頼している様子が本当にいい。

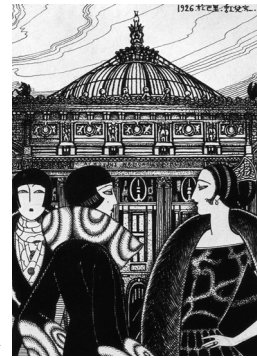
日本海大水槽は名前のとおり日本海を再現しており、対馬暖流の四十種三千尾を擁する。マイワシやシマアジなど群れて泳ぐ魚がきらきらと美しい。すーっと亀が横切って行ったり、エイがばっさばっさと通って行ったり、豊かな海を感じられる。

水族館をすーっと回っていると疲れるが、そこかしこにベンチがあり、ゆつくりと眺めていられる。何とも言えない癒しの力を感じる。魚を目で追う人の表情も、同じようにきらきらしていた。(菅真理子)



新潟市中央区西船見町 5932-445
TEL 025-222-7500
(9時～17時) 大人 1500円

にいがた
文化の記憶館
便り(5)



「仏蘭西絵だより グランドウオペラ」1926年▶

パリの落谷虹児

秋岡 啓子

大正から昭和にかけて活躍した抒情画家・落谷虹児（1898～1979年）。今年5月、パリの日本文化会館で開催された個展には、出身地の新潟県新発田市にある記念館が所蔵する作品を中心に134点が貸し出され、展示されました。1925年、絵の勉強のため渡仏した虹児の凱旋90年展でした。

虹児の代表作「花嫁」には、若くして亡くなった美しい母の姿が投影されているといわれています。新発田の湯屋の看板娘だった母エツは15歳で駆け落ちし、虹児を産みました。貧しい家で育った虹児は、働きながら絵の勉強をします。20歳前後の2年半は、樺太に渡り旅絵師として漂浪。22歳で竹久夢二と知り合い、「少女画報」の挿絵画家に推薦されると評判を呼び、「令女界」「少女俱樂部」などの少女雑誌で表紙絵や挿絵を数多く発表しました。そして人気絶頂だった27歳のとき、パリ留学に出発したのです。当時パリには画家を目指す日本人が多かったです。1910年代には10人ほどだったのが、虹児がいた20年代後半には最大400人にも達したといわれています。その理由には、エコール・ド・パリの画壇で活躍する藤田嗣治の成功がありました。虹児もパリにいた3年半あまりの間に、春のサロン・ナショナルで6点、秋のサロン・ドートンヌで3点、計9点もの連続入選を果たしています。

余談になりますが、このころ在パリ日本人の親睦機関紙として「巴里週報」という新聞が発行されていました。この週報の主筆で編集人である石黒敬七（1897～1974年）は、新潟県柏崎市出身です。石黒は虹児の渡

仏1年前、自ら「石黒敬七君を渡仏させる会」を立ち上げて資金を募り、柔道師範としてパリにやってきました。柔道普及のかたわら絵も描き、藤田ら画家とも深く親交を持った石黒は在パリ日本人の中心にいました。虹児の家に来ては、お櫃いっぱいのご飯を食べていたといいます。戦後、NHKラジオの「とんち教室」で人気を集めた「大ボケの石黒旦那」としても有名です。

さて虹児は31歳のとき、シャンゼリゼの一流画廊で個展を開催しました。新聞、雑誌で大きく取り上げられ好評を得ましたが、その矢先、実家の経済事情から帰国を余儀なくされます。画家への夢を断念し、日本で挿絵の仕事を再開した虹児の作品は、パリ帰りの洗練された画風で以前にも増して評判を高めたのでした。少女たちに夢を与える優雅な絵から、虹児自身も苦労知らずのお坊ちゃんと思われがちだったといいますが、72歳のときに出版した画集で虹児は「絵の習作の筆を捨て、細い丸ペンから稼ぎ出す生活は悲しかったが、余命いくばくもない病父を想うと、母亡きあとの弟を思うと、私は忙しく挿絵を描くより仕方がなかった」と若い日を振り返っています。

「金襴緞子の帯しめながら、花嫁御寮はなぜ泣くのだろう」の詩のとおり、虹児の作品はどこか陰のある美しさをたたえています。そんな虹児の気持は、少女たちのものでだけではありませんでした。中国近代文学の父といわれる魯迅（1881～1936年）は戦前、虹児の詩画集を集め、中国語に翻訳して上海で「落谷虹児画選」を出版しました。また三島由紀夫（1925～70年）も、虹児のファンを公言していました。三島は20歳のときに書いた小説「岬にての物語」を後年出版する際、虹児に装幀を依頼して限定300部の豪華本を出しています。繊細な虹児作品の魅力は、まだまだ色褪せておらず、現代の「カワイイ」文化の原点ともいえるでしょう。

「パリの落谷虹児」

- 会期：12月5日(土)～2016年1月31日(日)
- 休館日：月曜休館、ただし1/11は開館し1/12休館
(年末年始は12/28～1/4まで休館)
- 1/10(日)落谷龍夫氏(虹児ご子息)と当館館長による対談イベント開催
- お問い合わせは TEL 025(250)7171

【企画展示情報】



▲落谷虹児

▲石黒敬七

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

悪代官ラーメンを食べに行こう

岩田 桂

寒くなるとラーメンが恋しくなる。しかしこれだけ普及してもこのラーメンは、俳句界では無季として扱われる。冬の季語として認定されたら、それこそ数々のラーメン名句が誕生するのだが、俳句界は「ウン」と言わない。伝統文学だから仕方ないか。

そんな無季のラーメンを今回は、ドラマとして世に知らしめたいとペンを走らせている。ボクとお店の家族のコラボによる自作自演のドラマ劇場である。さあ、お店に突入しますよ、いいですか、ドラマの始まり、ハジマリ……。

ボクには季節に関係なく、ラーメンが無性に食べたくなる店があります。昼時ともなると男衆が袖をまくりあげて集まってくる店である。何故か磁石に引き寄せられるように馴染み客がやってくる。そしてたちまち狭いカウンターは満員になる。どちらかと言うとパワー系の客筋が多い。

カウンターの向こう側では、女将さんと息子、娘さん(時たまお嫁さん)の家族三名がこれも狭い厨房の中でテキパキと注文をこなす。家族亭ラーメンにふさわしい光景である。

さて今日は何にするか。旨煮、又焼、味噌、特製、岩海苔、モヤシ、野菜ラーメンなどのメニューを見ながら、隣の席のおにちゃんの現場を観察してみる。

ラーメン店さてどの食欲と遊ぼうか

おにちゃんのラーメンは、大きな皿に丼をドカーンと置いた、ボリュームたっぷりの特製味噌ラーメンらしい。そのボリュームはただ事ではない量目である。見たことがない。とにかく外れに多い荒っぽい盛り付けの一品である。まさにドカーンと出てくる。それをおにちゃん、まるで親の仇に挑むような

顔つきでフウフウと食らいつく。

なるほど、そうか。この店が男衆に占領される訳が見えてきた。このボリューム感の男衆が男衆を殺気立たせて、食欲を駆り立ててやまないのだ。なるほどこれか。

男衆の嵩の媚売るラーメン屋

ならばとそのドカーンの旨煮ラーメンを注文し、今は懐かしい大瓶のビールをグビグビやっけて待つことにした。大瓶なのが実にうれしい。今どき珍しい。しばらくするとカウンターの向こうから、皿にのっかったドカーンが出てきた。店主の女将さんがニヤリと笑いながら、差し出してくれる。

おお、これが男衆のあるラーメンか。引き寄せると具材が丼から飛び出しそうな勢いである。お皿の下敷きがこの具材のみ出し暴挙を迎えてくれるから、あとはがつくだけでいいよという感じである。さて食べつくすとするか。

旨煮そば箸がためらふてんこ盛り

太麺を突つきながら十種ほどの具材を目で数えてみた。ウズラ卵に豚こま、エビ、白菜、木耳、人参などがバカ正直に参加しており、店主の手柄が見えて来る。これが実にうれしい。

先代の親父さんがレシビを考えた味つけは、たしかに今の三人家族に受け継がれている。ガツガツと食い散らしても、丼の底がなかなか現れない。さすがの男気ラーメンである。

そしてフウフウすること約二十分。お汁まで余さず飲み干して、ホッと一息入れる。

ラーメンの底まで舐める花の昼

今日の探検はこれで終了した。ここでふと男のラーメンなるアイデアを思いついた。

男衆がニヤリと食いつくドカーンラーメンである。

その名も悪代官ラーメンである。作り方は簡単である。今のお店に「あるもの」をプラスするだけである。



そのあるものとは、厚切(八ミリ)の又焼である。この又焼を小判に見たてて、丼の底に潜めおくだけである。そして「越後屋、そちも悪じゃのう」と言いながら、ずつこけ食べするのを楽しむのだ。悪代官に一度はなりたかった男衆の願望をかなえる寸方である。さつそくお店に頼んで、あれこれのラーメンを順番に悪代官化してみた。まずは普通のラーメンからスタートした。

お店の娘さんが笑いながら「越後屋、そちも悪じゃのう」と言いながら出してくれる。そのユーモアが思った以上に男心を刺激してくれる。そして小判を掘り出すのが実にうれしい。隠された賄賂を食べるのが実においしい。何倍もおいしい。思わずウフフと喜びをこらえる。

おおこれが悪代官のラーメンか

しかも「何をバカげたことをやってるのか、このおじさんは……」という世間の冷視線もまったく気にならない。これくらいの小バカさが丁度いい。

やがて半信半疑だったお店の人も、ボクの顔をみると「今日はどの悪代官」と少し乗り気となってきたのがうれしい。やはり生業は楽しくなくっちゃあねえー。

そして行き着いた究極の悪代官は、麻婆豆腐ラーメンである。ピリツと辛い表面をかき分けて探すと小判との相性は、もう涙が出そうな旨さである。生きてきてよかった、と思える瞬間に出会えた欲びは、誰にも教えないつもり(極秘扱い)。

食いしんぼうに生まれ悔ひなし麻婆麺

ちなみにこの評判のお店は、らーめん亭「にしやま」さんである。新潟市中央区学校町三番町のバス停近くにある。ここ新潟でいつまでも繁盛して欲しいお店の一つである。

この悪代官に会いに行くのもまた食いしん坊の楽しみである。「○△×の悪代官を……」と言えば、ニコリとして快諾してくれる。そちも悪じゃのう、ワツハハハ……と言いながら。

オリジナルポストカード「冬」一新しました!

前回の秋バージョンより、作品を一新した当社のオリジナルポストカード。続いて冬バージョンも、より多彩でカラフルな作品を揃えました。

今回同封したのは、クリスマスの時期でもあり「タルト」! チラシも同封しましたので、ご自宅使いのほか、プレゼントにもぜひご利用ください。

ご希望される方は、同封のチラシの「ご注文書」にご記入のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ、封書にてお申込みください。(1組8枚入り500円)**

※ボタニカルアート…植物の姿を正確で細密に描く、植物図鑑のための絵画のこと。



Rie

ジュリアン、クワイ、ビオラ、タルト、スイセン、西王母、クリスマスホーリー、ユズ

当社ホームページご覧ください!

当社のホームページをご覧になったことはありますか? 今までお手伝いしてきた本の数々が見られる「作品紹介」のほか、「本づくり」の詳細や当社の考え方がより理解できる内容となっています。

この「喜怒哀楽」の紙面をそのままご覧になれるのはもちろんのこと、「句会・歌会探訪」や「お客様紹介」のコーナーでは、「笑顔礼讃西・東」の写真をカラーで見ることができます。

また、平日は毎日スタッフが順番に更新している「スタッフブログ」のコーナーもあり、当社のこと、各人の素顔をさらに垣間見ることができます。「喜怒哀楽書房」と検索して、一度ご覧になってみてください!

<http://www.eseihon.com/>

句集・歌集・自費出版 **喜怒哀楽書房** 編集 堀内 幸子

お問合せ・資料請求・お見積り お問合せ・資料請求 お見積り

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 24階 2401号室

TEL: 025-250-9666 FAX: 025-250-9550

0120-819-395

抱きしめていただける本づくり
心をこめてお手伝いいたします。

句集・歌集・自伝・体験記・エッセイ・詩集・事業継承報告書・通辞集・連絡集等。女性スタッフならではの温かい丁寧な仕事で、あなた様の思いを本にします。

お知らせ 喜怒哀楽書房について 本づくり 作品紹介 読み人応援マガジン 句会・歌会探訪 スタッフ

「2016年手帖」11月下旬にお送りいたしました 「ご縁ブック2015」12月上旬にお送りいたしました

「2016年手帖」「ご縁ブック2015」とも、若干余部があります。お早目にお問い合わせください。



スタッフの一言

Q. あなたが好きな鍋は何ですか?

※トナカイのカチューシャでクリスマスが待ち遠しい☆



年々年初めに食べる「鴨汁」は滋味豊かだと思うものの、ふと思い出すのは昔大家族で食べた大きな鍋にたゆたう湯豆腐。昆布で出汁をとり、薬味は鯉節と葱と柚子で一献が数献に!



海鮮の寄鍋……かなあ? シンプルな味付けのものが一番しっくりきます。冬は鍋物で暖まりたいですね。



きりたんぼ鍋。秋田に数年住んだことから、我が家の冬メニューに仲間入りしました。すっきりとした味わいで、身体もぽかぽかになります!



水炊き。家族で食べる時はそれぞれ好きな味があるので、自由に味を選べるからです。ちなみに家の男衆はすっぱいのが苦手なのでめんつゆたれで私はすっぱいのがだいすきなのでポン酢たれにすだちをたっぷり搾って食べます。



雪を見ながらの雪見鍋(みぞれ鍋)! ほっこりします。学生の頃は友人とよく鍋パをしました。スーパーに買い出しに行き、地方出身者の集まりなのでそれぞれの郷土鍋を楽しんだ、幸せな時間でした。



「漁師鍋」柏崎で食べた番屋汁を鍋仕立てに。鯛の頭とアラで出汁を取って味噌仕立て、ホンビノス貝にアルゼンチン赤エビ、ペビーホタテで安上がり!! たまに鯛の骨が口に刺さる。



好き嫌いが多くわがままな私。あまり鍋は好きではないのですが、キムチ鍋は美味しいと思って食べています。忘年会や新年会では必ずと言っていいくらい鍋が多い。



「常夜鍋」。さすがに毎晩とは行きませんが、元々ほうれん草好きなので本当に飽きません。昨冬は忘年会で食べた居酒屋さんの「豆乳石狩鍋」に凝りました。そうだ明日作ります!



キムチ鍋はもともと好き。主人の実家秋田できりたんぼ鍋を食べて以来大好きです。比内地鶏と舞茸とセリ・今冬もあの味食べれるかな~♪



クリスマスプレゼントを今から楽しみにしています。ゆづき4歳4ヶ月♠



詠み人の『リレーエッセイ』

南国の女

錦見映理子

先月、大分県に初めて行き、湯平温泉に一泊した。
由布院から電車に乗り、湯平の駅に降り立つと、あたりは山ばかり。山々の緑は濃く、空気が凜と澄んでいて、静けさにはほっとする。無理して休みをとって、ここまで来てよかった。駅には、宿からの迎えの車が次々にやってきて、待っていた人たちを拾っては去っていく。

私たちを迎えてくれたのは、目鼻立ちのくつきりした、はきはきと弾むような声で話す女将さんだった。年は四十代半ばくらいだろうか。私と友人の荷物を車に積んでから、駅にまだ待っている人達に、流暢な英語で話しかけている。どうやら、同じ宿に泊まる予定の中国人観光客に、タクシーが来るからもう少し待って、と言っているようだった。

「このへんはずっと有名な湯治場だったんですけどね、だんだん時代に合わなくなってきた廃業した宿もあるんです。でもここ数年は海外のお客さんからネットでほとんど予約が入るようになって」と運転しながら話してくれた。山の中の寂れた温泉をイメージしていたので、外国人に大人気だとは驚きだった。

旅館は昔の郵便局を改築したという、雰囲気のある二階建てだった。玄関先で宿帳に記入していると、さっきの中国人客たちが到着した。女将さんが慣れた様子で、英語で説明している。あなたたちは一階、そちらの方たちは二階の部屋ね、温泉は地下に四つあるから、それぞれ鍵をかけて入ってください、先に誰か入ったら待ってね、オーケー？

私たちの他にはほとんどが外国人客のようだった。部屋で一

今回が最後の錦見さん。「のびのびと書いて、とても楽しかったです」といううれしいメッセージをいただきました。次回から担当してくださる19人目の詠み人は、歌集の他にエッセイ集も出されている女性歌人です。

休みしてから、早速温泉に入ろうと廊下に出ると、異国の言葉があふれかえるように階下から聞こえてきた。露天風呂に入りたけれど、空いてるかなあ、と戸惑いながら階段を下りていくと、女将さんがすかさず飛んできてくれて、バラバラに入ろうとしていた二組の男女に向かって「ひとつ空けてくれる？こっちで一緒に入ってね、ごめんね、ありがとう」と英語でばつとしゃべって、私たちのためのお風呂を素早く確保してくれた。

「すごいね、あの女将さん、やり手だね」と友達と話しながら、ゆつくり温泉に浸かる。お湯は透明で肌当たりが柔らか。秋の空はよく晴れて、遠くになだらかな稜線が見えた。「こんなに外国人だらけだとは思ってなかったけど、確かに九州は中国から近いもんね」「福岡で買物して、大分で温泉に入れば、それだけで充分いい旅になるよね」などと話しながらのんびりお湯を堪能した。

湯上りに、女将さんにすすめられて散歩をした。三百年前に造られたという石畳の道が、上がったたり下がったりしながら、細長く続いていた。たくさんの湯治客が踏みしめてきた道をゆつくりくんだり、赤い提灯のさがった道をのぼる。種田山頭火が訪れたらしく、ところどころに句が書かれた幟があった。

街並も山もお湯も素晴らしかったが、代々つづく宿をほぼ一人で切り盛りしていた女将さんがカッコ良くて、心に残った。

もう君との旅はなけれど近代詩のごとく書棚にある時刻

表

尾崎朗子『タイガリー』

2015. 12. vol.83 (2015年12月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

0120-819-395

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

編集後記

最後の確認で今号を読むと、歳月と様々な経験を重ねなければ出てこないであろう皆さまの言葉や発想がそここにあり、豊かな紙面にさせていただいていることに改めて感謝致します。過去がよくて今が悪いわけでも、その反対でもなく、どんな世でも今は今を生き切るしかありません。P9にあった川口さんの「一生は一幕限り」の句に感じ入る方が多かったのも、つまりはそういうこと。時に他と比較したり、右へ倣えをしてしまったりでも人生の主役は自分。全て自作自演で代役はなし。閉幕まで、自分が見たもの感じたものを信じて自分を生きていこう。本年も誠にありがとうございました!!(木戸敦子)